

鳴沢氷穴

鳴沢氷穴は、青木ヶ原樹海の地下 21m の岩へと続く急峻な豎穴型の洞窟です。この地学的な興味をそそる洞窟は、溶岩流の中の大規模なガスの気泡が弾け、冷えつつあったのでその時にできた壁が崩れずに済んだことで形成されました。メインの経路から分岐する立杭の多くは、特に不吉な感じのする地獄穴と呼ばれる穴をはじめ未だに調査されていません。

この洞穴は二重に重なる「輪っか」で構成されています。この環状に一周するルートの上からの長さは約 150m で、10～15 分で歩くことができます。階段の段数は、下りは 91 段、そして上りは 101 段あり、氷で通路が滑りやすくなることがあります。天井の最も低い箇所はわずか 91cm なので、入り口でヘルメットを借りることをお勧めします。

氷穴の最深部の気温は年中氷点下で保たれています。何年にもわたり、地元の住民たちは 危険だとして避けてきたのは明らかですが、20 世紀初期からは天然の冷凍庫として氷や種子の保存に使われてきました。キラキラと光る「氷の壁」や表面が凍りついた鍾乳石を経路で見ることができます。